

事務事業評価票

所管部長等名	建設部長 船藏 満彦
所管課・係名	街路公園課 街路係
課長名	下川 哲夫

評価対象年度	平成23年度
--------	--------

(Plan) 事務事業の計画

事務事業名	街路事業:北部幹線道路整備事業 (社会資本整備総合交付金) (地方特定)		「主なる事業の執行状況調」における件名又は事業名	北部幹線道路整備事業
会計区分	一般会計			
予算の事業名	北部幹線道路整備事業(総合交付金)	北部幹線道路整備事業(地特定)		
事業コード(大-中-小)	12 - 01 - 47	12 - 01 - 48		
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第3章 安全で快適に暮らせるまち		
	施策の大綱(節)【政策】	③暮らしを支えるまちづくり		
	施策の展開(項)【施策】	①便利で快適な交通基盤整備		
	具体的な施策と内容	(2)魅力ある交通環境の整備・改善		
根拠法令、要綱等	都市計画法			
実施手法 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 全部直営 <input type="radio"/> 一部委託 <input checked="" type="radio"/> 全部委託 <input type="radio"/> その他()		法令による実施義務 (該当欄を●)	<input checked="" type="radio"/> 義務である <input type="radio"/> 義務ではない
事業期間	開始年度	平成22年度	終了年度	平成24年度

(Do) 事務事業の実施

事務事業の概要	目的	対象(誰・何を) 都市の基盤的道路施設として、主要な骨格をなし、市民生活や経済活動等における自動車歩行者交通等を円滑にするとともに、当該地区の外郭を形成する道路に連結する。	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) 市施行中の八千把地区土地区画整理事業による「北部幹線」整備事業と、県施工中の市北部地区との結束強化を図り、沿線地域の振興発展や道路利用者の利便性、安全性の向上に寄与する。
	内容 (手段、手法等)	【全体の事業計画】本路線は、市内中心部の県道八代港大手町線を起点とし、市の東西幹線軸である県道八代港線を経て八代北部地区を結ぶ主要な幹線道路である。本事業は現在まで未着手となっている最終区間の整備に取り組むもの。 ○延長 L=102m ○幅員 W=22m ○全体事業費 C=200百万円 【本年度の概要】事業費:48,000千円 ・北部幹線改良工事 ・北部幹線舗装工事	
事業開始時点からこれまでの状況変化等	起点である県道八代港大手町線(市立図書館)から県道八代港線までの区間を主要地方道八代鏡線として供用開始されている片側2車線・幅員22mの南北に直線的に伸びる幹線道路である。現在市施行中の八千把地区土地区画整理事業及び県道八代鏡線の道路事業による北端部の交差点改良工事と一体的整備を行うことにより、既成市街地と八代北部方面との道路網形成を図るとともに、沿線地域の日常生活の利便性、新興発展に寄与する。		

コスト・成果指標の推移

		単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込	
コスト	総事業費	千円	75,250	65,950	52,550	0	0	0	
	事業費(直接経費)	千円	70,000	60,000	48,000	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金	千円	38,500	24,200	24,200	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0		0	0	0
		市債	千円	29,900	34,000	22,600	0	0	0
		その他()	千円	0	0		0	0	0
		一般財源	千円	1,600	1,800	1,200	0	0	0
	概算人件費(正規職員)	千円	5,250	5,950	4,550	0	0	0	
正規職員	従事者数	人	0.75	0.85	0.65	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員等従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(もたらそうとする効果の数値化)	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画
	①	整備延長(事業費ベース):(累計の事業費/全体事業費)×全体延長	事業開始から、事業費ベースでどの程度整備を行ったか換算延長での指標として設定した。 事業認可延長 L=102m	m	36	66	102		
	②	進捗率(事業費ベース):(累計の事業費/全体事業費)×100	事業開始から、どの程度事業費ベースで進捗しているかを割合の指標として設定した。	%	35	65	100		
(記述欄)※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結び つきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) 今年度完了予定である。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化によ り、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当 ですか(国・県・民間と競合していませ んか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移し ていますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) 今年度完了予定である。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見 直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な どにより、成果を下げずにコストを削 減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) 道路構造令に準拠するとともに、最も経済的で安価な施工方法で 行っている。 また、他事業(上下水道)と連携を図り、同時施工することでコスト 縮減に努めている。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能です か	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありま すか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃 止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 (該当欄を●)	<ul style="list-style-type: none"> ● 不要(廃止) ○ 民間実施 ○ 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) ○ 市による実施(要改善) ○ 市による実施(現行どおり) ○ 市による実施(規模拡充) 	(今後の方向性の理由) 今年度末供用開始に向け、未買収地の購入及び改築工事を推進する。 (今年度完了予定) 道路予定地が購入できない場合、2年間の延伸見込み。																					
改革改善内容	<p align="center">今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>今後の取組として、他事業や別途工事で発生した建設残土を有効利用し、構造上支障がない部分へ流用し、より一層のコスト縮減に努めている。</p>	<p align="center">改革改善による期待成果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

外部評価の実施	無	実施年度	
---------	---	------	--

決算審査特別 委員会における 意見等	(委員からの意見等)
--------------------------	------------